

令和6年2月

令和5年中における山岳遭難の概況



静岡県警察本部

地域部地域課

1 令和5年中における静岡県内の山岳遭難発生状況

(1) 統計資料等

ア 発生件数等（括弧内は前年比）

区 分	発生件数	遭難者数	死 傷 別				
			死 亡	行方不明	負 傷		無事救助
					重 傷	軽 傷	
令和5年	129(+5)	150(+11)	8(-2)	2(+2)	22(±0)	19(+5)	99(+6)
富士山	75(+19)	85(+26)	5(+1)	0(±0)	9(+4)	15(+10)	56(+11)
南アルプス	13(+5)	13(+5)	1(±0)	0(±0)	4(+2)	2(-1)	6(+4)
その他	41(-19)	52(-20)	2(-3)	2(+2)	9(-6)	2(-4)	37(-9)

その他の山系別

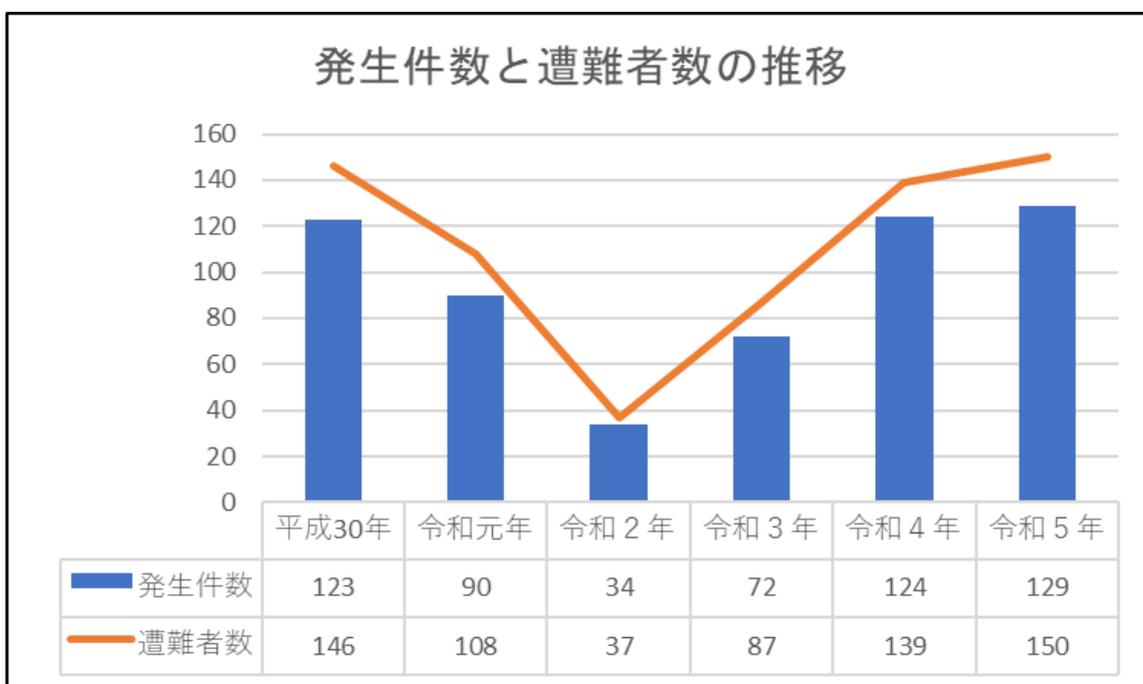
天城山系	7(-4)	9(-6)	0(±0)	0(±0)	0(-2)	0(±0)	9(-4)
愛鷹山系	6(+2)	6(+1)	1(+1)	0(±0)	1(±0)	0(±0)	4(±0)
天子山系	5(+1)	11(+7)	0(±0)	0(±0)	1(-2)	0(±0)	10(+9)
安倍山系	2(-3)	2(-3)	0(-1)	1(+1)	1(+1)	0(-2)	0(-2)
奥大井山系	1(+1)	1(+1)	0(±0)	0(±0)	0(±0)	0(±0)	1(+1)
北遠山系	1(+1)	1(+1)	0(±0)	0(±0)	1(+1)	0(±0)	0(±0)
その他	19(-17)	22(-21)	1(-3)	1(+1)	5(-4)	2(-2)	13(-13)

イ 態様別発生状況（態様その他～悪天候、装備不備、態様不明等）

	発生件数 (件)	遭 難 者 数 (人)						山 系 別 (人)		
		計	死亡	行方不明	重傷	軽傷	無事救助	富士山	南アルプス	その他
合 計	129	150	8	2	22	19	99	85	13	52
滑落	11	12	3		7	1	1	3	5	4
転落	3	3			3			1		2
転倒	28	28			11	17		21	2	5
道迷い	28	42			1		41	15		27
疲 労	15	15					15	12	2	1
病 気	32	32	3				29	28	3	1
その他	12	18	2	2		1	13	5	1	12

ウ 過去(平成30年～令和5年)の発生状況

区 分	発生件数	遭難者数	死 傷 別				
			死 亡	行方不明	負 傷		無事救助
					重 傷	軽 傷	
令和5年	129	150	8	2	22	19	99
令和4年	124	139	10	0	22	14	93
令和3年	72	87	5	1	17	15	49
令和2年	34	37	9	1	3	4	20
令和元年	90	108	5	1	24	15	63
平成30年	123	146	11	3	17	35	80



エ 居住地別発生状況

	計	遭 難 者 数 (人)					山 系 別 (人)		
		死亡	行方不明	重傷	軽傷	無事救助	富士山	南アルプス	その他
合 計	150	8	2	22	19	99	85	13	52
静 岡 県	43	4	1	11	2	25	18	2	23
県外居住	96	4	1	8	15	68	56	11	29
国外居住	11			3	2	6	11		

オ 年齢層別発生状況

	遭難者数(人)						山系別(人)		
	計	死亡	行方不明	重傷	軽傷	無事救助	富士山	南アルプス	その他
合計	150	8	2	22	19	99	85	13	52
10歳未満	2					2	2		
10～19	13					13	10		3
20～29	23	1		2	4	16	19	1	3
30～39	13			2		11	6	1	6
40～49	21	1		5	5	10	12	2	7
50～59	26	2		8	3	13	10	5	11
60～69	26	2		5	2	17	14	2	10
70～79	18	2	1		4	11	7	2	9
80歳以上	8		1		1	6	5		3

(2) 発生傾向

ア 件数、遭難者数

令和5年は、新型コロナウイルス感染症による行動制限解除により登山者が増加し、これに比例し山岳遭難もコロナ禍以前の水準で発生したものと推測される。

年間の発生件数は129件(前年比+5件)、遭難者数は150人(同比+11人)でいずれも前年より増加したが、死者は8人(同比-2人)で減少した。

山系別では富士山が75件85人(同比+19件+26人)と最も多く、南アルプスでは13件13人(同比+5件+5人)、その他の山系が41件52人(同比-19件-20人)であった。

イ 道迷いが最多、疲労が減少、病気が増加

道迷いが42人(28%)と最も多く、疲労は15人で前年の24人から9人減少したが、病気は32人で、前年の16人から2倍に増加した。

原因のうち、低体温症及び高山病が17人で、全て富士山で発生した。

また心疾患が7人(心疾患の疑いも含む、うち3人死亡)であり、過去4年(令和4年1人、令和3年1人、令和2年0人、令和元年1人)と比較しても大幅に増加した。

ウ 下山中に多発

遭難者 150 人のうち、70.6%の 106 人が下山に遭難している。

エ 居住別では県外及び国外居住が約 7 割

県外居住が 96 人 (64.0%)、国外居住が 11 人 (7.3%)、静岡県内者が 43 人 (28.7%) で、県外居住と国外居住で約 7 割を占めた。

(3) 山系ごとの特徴

ア 富士山 85 人 (遭難者の 56.6%)

病気 28 人、転倒 21 人、道迷い 15 人、疲労 12 人、滑落 3 人、転落 1 人
その他 5 人

- ・ 病気は、県全体 32 人中富士山では 28 人 (87.5%) を占め、高山病や低体温症といった高所ならではの病気が目立った。
心疾患も県全体 7 人中 6 人 (うち 3 人死亡) が富士山標高 2400m 以上の高所で発症している。
- ・ 転倒は県全体 28 人中富士山では 21 人 (75%) であり、うち下山中が 18 人 (85.7%)、疲労は県全体 15 人中富士山では 12 人 (80%) で、全員が下山中であった。
登山時に体力を使い果たし、下山中に足に踏ん張りがきかなくて転倒したり、疲労で行動不能になるケースが目立った。

イ 南アルプス 13 人 (遭難者の 8.7%)

滑落 5 人、病気 3 人、転倒 2 人、疲労 2 人、その他 1 人

- ・ 滑落は、2 月から 9 月までの間に、積雪期の有無に関わらず発生した。
- ・ 面積が広大で、ルートも長いことから救助完了までに数日を要することが多く、通報から 5 日後に救助されたケースもあった。

ウ その他の山系 52 人 (遭難者の 34.7%)

道迷い 27 人、転倒 5 人、滑落 4 人、転落 2 人、疲労 1 人、病気 1 人、その他 12 人

- ・ 道迷いは、県全体 42 人中その他の山系 27 人 (64.3%) であり、ほとんどが怪我無く救助されている。
分岐間違いや、日没を迎え照明具の持参がなく登山道がわからなくなったケースが散見された。

2 山岳遭難を防止するには

天候、体調等に少しでも不安を感じたら「**勇気ある下山**」

「**登山自体の中止**」をお願いします。山頂より命の選択を!

(1) 登山計画書の作成!!

目的となる山について所要時間や危険箇所などを調べることになるので、自分の体力や技量で無事に登って帰ってこれる山なのか否かの判断材料になります。



(2) 作成した登山計画書の情報共有!!



登山計画は、家族や職場等と共有しておくことで万一の場合には捜索救助の手掛かりとなります。

登山計画書を受領している官公署（警察など）への提出や、登山アプリへの登山計画登録も、捜索救助への素早い立ち上がりにつながります。

※ 登山計画書は、インターネットから以下の方法でも提出可能です。

- ・ 静岡県公式HP「ふじのくに電子申請サービス」
- ・ 山岳安全対策ネットワーク協議会電子登山届「コンパス」
- ・ 登山アプリへの登山計画の登録

(3) 登山する時の必需品

日帰り登山の予定でも天気が良くても、次の4つは必ず持参しましょう！

1 レインウェア上下

停滞を余儀なくされた時の防寒具になります！

また山ではよくある急な雨には欠かせません！



2 予備の飲食物

お昼のお弁当や道中のおやつとは別に用意を！

食べること、飲むことで身体も気持ちも元気に！

3 ヘッドライト

「日没を迎えたが暗くて歩けない」ということにならないために、また遭難時には救助へりに自分の位置を知らせるアイテムになります。



4 携帯電話(可能な限りスマートフォン)

& 予備電池(モバイルバッテリー)

携帯電話は、救助機関とあなたをつなぐ命綱！

スマートフォンなら山岳用 GPS アプリのインストールが

可能！万が一の通報時にバッテリー切れとならない

ように予備電池も必要です。

